ZOOM 130c DATE

J 使用説明書

目次

準備しましょう

基本撮影

応用撮影

資料

正しく安全にお使いいただくために

ここに示した注意事項は、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。よく理解して正しく安全にお使いください。

⚠警告　この表示を無視した取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意　この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです（左図の場合は発熱注意）。

⚠警告

電池について

電池の取り扱いを誤ると、液漏れによる周囲の汚損や、発熱や破裂による火災やケガの原因になりますので、次のことは必ずお守りください。

- 指定された電池以外は使わないでください。
- 電池の極性(＋／－)を逆に入れないでください。
- 表面の被膜が破れたり、はがれたりした電池を使用しないでください。
- 電池の充電、ショート、分解、加熱、および火中・水中への投入は避けてください。また金属類と一緒に保管しないでください。
- 万一電池が液漏れし、液が目に入った場合は、こすらずにきれいな水で洗った後、直ちに医師にご相談ください。液が手や衣服に付着した場合は、水でよく洗い流してください。また、液漏れの起こった製品の使用は中止してください。

ご使用に際して

フラッシュを人の目の近くで発光させないでください。

目の近くでフラッシュを発光させると視力障害を起こす原因となります。

車などの運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。

交通事故の原因となります。

ファインダーを通して太陽や強い光を見ないでください。

視力障害や失明の原因となります。

⚠ 警告（つづき）

カメラを濡らしたり、濡れた手で操作したりしないでください。内部に水が入った場合はすみやかに電池を抜き取り、使用を中止してください。

使用を続けると、火災や感電の原因となります。裏表紙記載の弊社フォトサポートセンターにご相談ください。

引火性の高いガスの充満している中や、ガソリン、ベンジン、シンナーの近くで本製品を使用しないでください。また、お手入れの際にアルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。

爆発や火災の原因となります。

その他

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。

他の金属と接触すると発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

ご自分で分解、修理、改造をしないでください。

内部には高圧部分があり、触れると感電の原因となります。修理や分解が必要な場合は、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店にご依頼ください。

落下や損傷により内部、特にフラッシュ部が露出した場合は、内部に触れないように電池を抜き、使用を中止してください。

フラッシュ部には高電圧が加わっていますので、感電

の原因となります。またその他の部分も使用を続けると、感電、火傷、ケガの原因となります。弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

幼児の口に入るような電池や小さい付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。

幼児が飲み込む原因となります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。

幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意をはらってください。ケガや事故の原因となります。

万一使用中に高熱、焦げ臭い、煙りが出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。電池も高温になっていることがありますので、火傷には十分注意してください。

使用を続けると感電、火災、ケガの原因となります。弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

⚠注意

車のトランクやダッシュボードなど、高温や多湿になるところでの使用や保管を避けてください。

外装が変形したり、電池の液漏れ、発熱、破裂による火災、火傷、ケガの原因となります。

レンズが前方に伸びた状態で、レンズ部分を持たないでください。

しばらく操作をしないでいると、自動的にレンズが収納されます。手を触れていると、手をはさむ原因となります。

発光部に皮膚や物を密着させた状態で、フラッシュを発光させないでください。

発光時に発光部が熱くなり、火傷の原因となります。

はじめに

このたびは、お買い上げありがとうございます。

「ZOOM 130c」は、約3.4倍のズームレンズを搭載しながらも、軽量・小型ボディを実現した簡単操作のコンパクトカメラです。さまざまな機能を搭載し、幅広い撮影シーンで気軽にお使いいただけます。

本文中のマークについて

撮影に不都合が生じる恐れのある事項など、特に注意いただきたい内容が記されています。

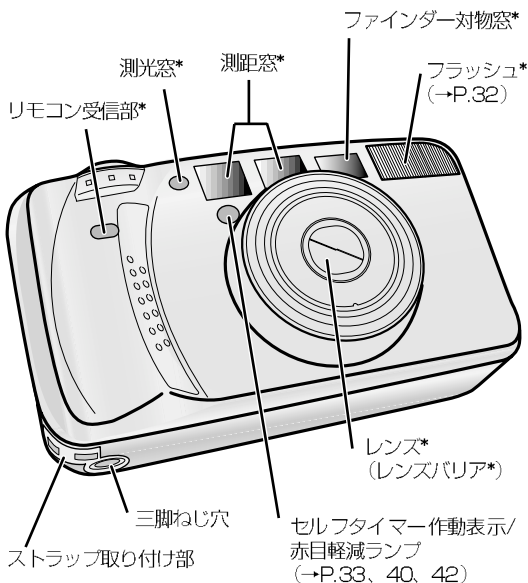
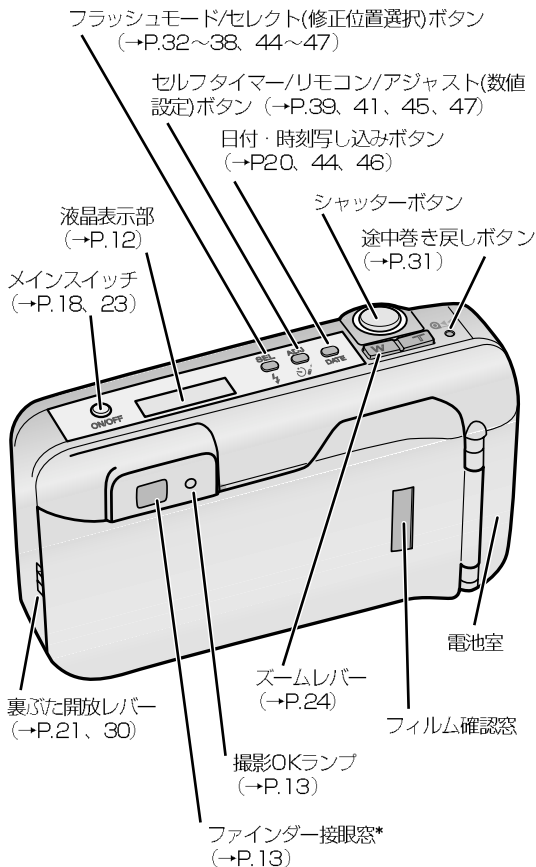
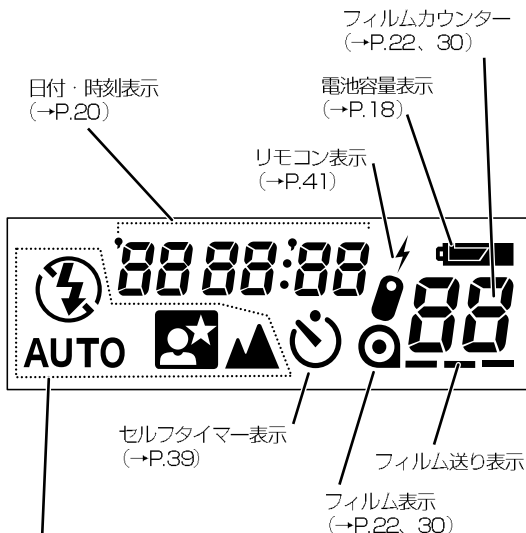
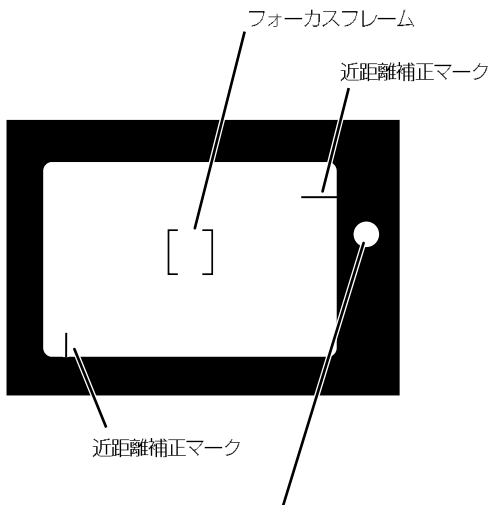
カメラの基本操作に加え、知っておいていただきたい事項が記されています。

ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。またお読みになったあとは、保証書、アフターサービスのご案内とともに大切に保管してください。

各部名称

カメラボディ

*マークで記されている部分は触らないでください。

フラッシュモード/セレクト(修正位置選択)ボタン
(→P.32～38、44～47)
セルフタイマー/リモコン/アジャスト(数値設定)ボタン(→P.39、41、45、47)
日付・時刻写し込みボタン
(→P.20、44、46)
シャッターボタン
液晶表示部
(→P.12)
途中巻き戻しボタン
(→P.31)
メインスイッチ
(→P.18、23)
SEL
ADJ
DATE
W
T
ON/OFF
電池室
ズームレバー
(→P.24)
裏ぶた開放レバー
(→P.21、30)
フィルム確認窓
撮影OKランプ
(→P.13)
ファインダー接眼窓*
(→P.13)

液晶表示部 説明のためすべての表示を点灯させています。

ファインダー

撮影OKランプ

点　　　灯 → 撮影できます。

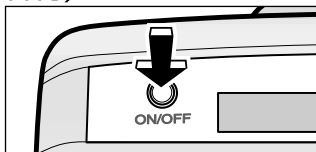
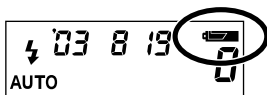
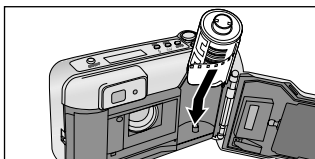
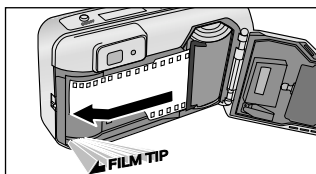
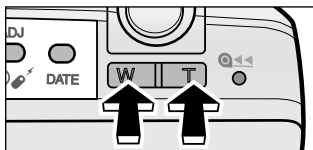
消　　　灯 → フラッシュが充電中です。シャッターは切れません。

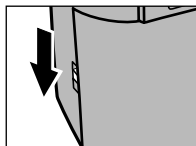
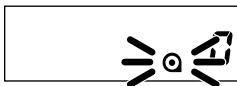
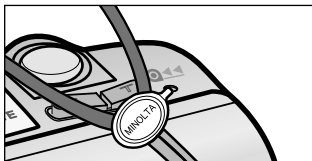
ゆっくり点滅 → シャッター速度が遅くなっています（三脚などでカメラを固定してください）。

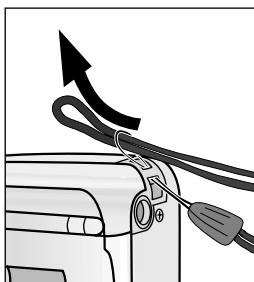
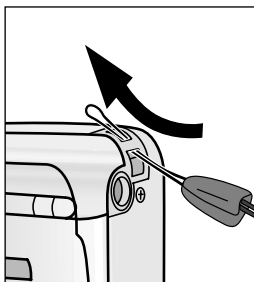
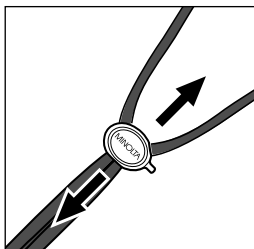
すばやく点滅 → 被写体が近すぎます。シャッターは切れません。

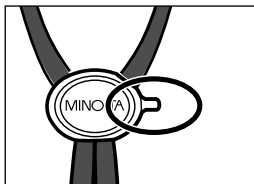
基本撮影早わかり

全自動による基本撮影の早わかりを示しています。詳しくは参照ページをご覧ください。

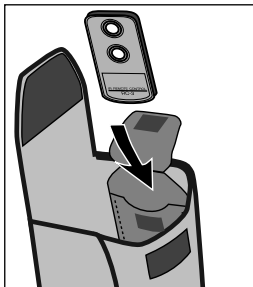
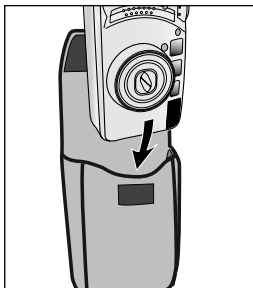
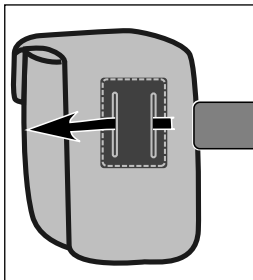
1 メインスイッチを押して、電源を入れます（→P.18）

2 電池容量を確認します（→P.18）

3 フィルムを入れます（→P.21）

4 フィルム先端を「｜←FILM TIP」に合わせ、裏ぶたを閉じます（→P.22）

5 ズームレバーを押して、撮りたいものの大きさを決めます（→P.24）

6 フォーカスフレームの中に撮りたいものがあることを確認して、シャッターボタンを押します（→P.25）

7 撮影が終わればフィルムが自動的に巻き戻りますので、フィルムを取り出します（→P.30）

フィルムを途中で巻き戻す場合（→P.31）

ストラップの取り付け方

図のようにして、ストラップを取り付けます。

●ストラップの持ち手の長さを調整することができます。

ストラップの突起部分の使い方

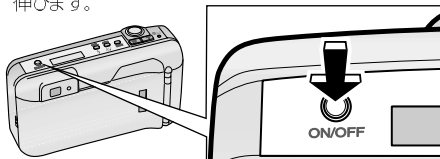
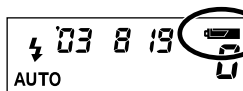
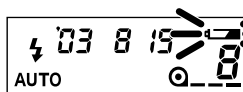
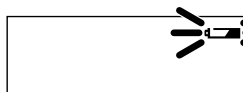
ストラップ突起部分でカメラ上面の途中巻き戻しボタンを押して、フィルムの途中巻き戻しができます（→P.31）。

ケースの使い方

カメラケースの内側にはリモコン用の収納ポケットがついています。

●リモコン収納時は、リモコン収納ポケットのふたを閉めてください。

カメラをフラッシュ側からケースに入れます。

ケースはベルトに通して使うこともできます。

電池容量を確認します

お買い上げの際には、電池はすでに入っています。

1 メインスイッチを押して電源を入れます。

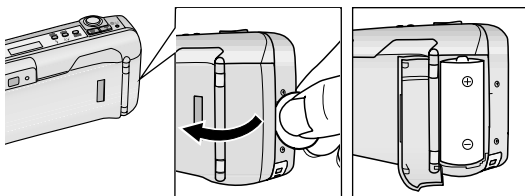
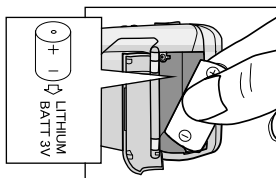
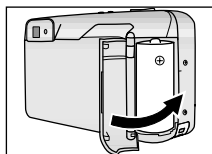
●電源が入ると、レンズバリアが開き、ズームレンズが前方に伸びます。

2 液晶表示部内の電池容量表示を確認します。

が約2秒間点灯
（約2秒後に消灯します）
→**電池容量は十分です。**

が撮影途中で点滅
→**新しい電池をご用意ください。**この状態でもしばらくは撮影できます。

が撮影途中で点滅し、その他の表示が消灯
→**新しい電池と交換してください（→19ページ）。**シャッターは切れず撮影できません。

●撮影の前には、必ず電池容量をご確認ください。
●お買い上げのときに入っている電池は、出荷時に入れられたものですので、新品電池に比べて消耗が早くなることがあります。

電池を交換します

電池は、3Vリチウム電池 **CR123A** または **DL123A** を1個使用します。

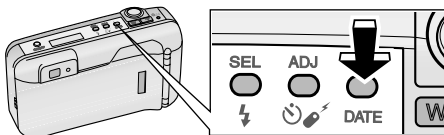
1 **メインスイッチを押して電源を切った後、コインなどを使って電池室のふたを開けます。**

●電源が切れると、ズームレンズが収納され、レンズカバーが閉じます。

2 **電池室の内側の＋－表示にしたがって電池を交換します。**

3 **電池室のふたを確実に閉じます。**

●電池を交換した後や入れ直した後は、日付・時刻表示部に - - - - - - が点滅します。このままの状態では日付・時刻は写し込まれません。正しい日付・時刻に設定してください（→P.44）。

●メインスイッチを押して何も表示されない場合は、まず電池の向きが正しいかどうかを確認してください。それでも何も表示されないときは、電池を交換してください。

日付・時刻を写し込みます

日付や時刻を写真に写し込むことができます。

1 電源を入れたのち、日付・時刻写し込みボタンを押して、写し込み内容を選びます。

- 日付・時刻写し込みボタンを押すごとに、液晶表示部の日付・時刻表示が次のように切り替わります。

年 月 日	日 時 分	写し込みなし	設定モード
'03 8 19	19 11:30	---- --	SEt

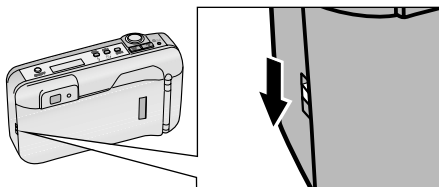
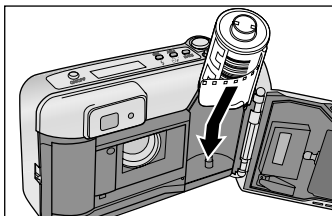
- 日付の年月日の並べ替えは、46ページを参照ください。
- 日付・時刻は下図の▬の位置に写し込まれます。

- 日付を設定していない場合は、SEt と ---- -- が交互に表示されます。
- ---- -- が点滅しているときは、写し込まれません。日付と時刻を設定してください（→P.44）。
- 写し込み位置に、白色、黄色、オレンジ色などの明るい色のものがあると、写し込んだ文字が読みにくくなります。
- 写し込みは次のコマに巻き上げるときに行われるので、最後のコマでは正しく写し込まれない場合があります。

1. フィルムを入れます

フィルムを入れて、基本撮影を行いましょう。

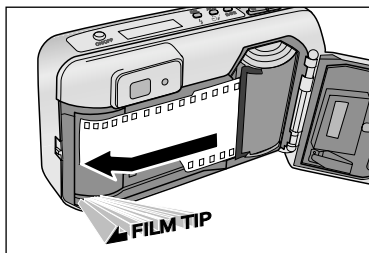
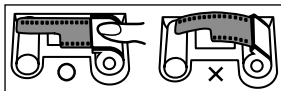
フィルム確認窓でフィルムが入っていないことを確認してから裏ぶたを開けてください。

1 裏ぶた開放レバーをカチッと音がするまで押し下げて、裏ぶたを開けます。

2 フィルムを図のように入れます。

このカメラはフィルムを入れると、不用意に裏ぶたが開かないように裏ぶた開放レバーがロックされます（セーフティロック機構）。

●手ぶれがしにくくフラッシュ光もより遠くに届くISO 400以上の高感度フィルムの使用をおすすめします。

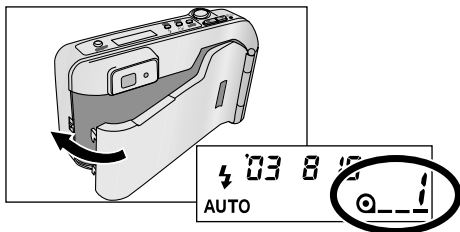
●ポラロイドインスタントリバーサルフィルムは、巻き上げがうまくできないことがありますので使用しないでください。

●フィルムの出し入れは直射日光を避けて行ってください。

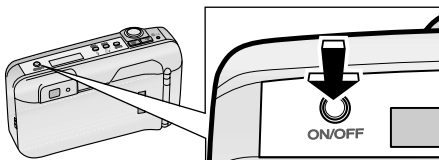
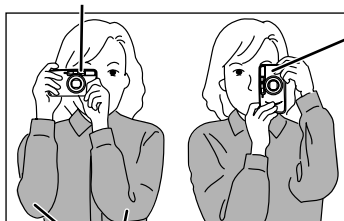
3 フィルムの先端を「｜←FILM TIP」の位置に合わせます。

●フィルムが浮き上がらないようにセットしてください。

●フィルムの先端をカメラに入れ過ぎないようにしてください。先端が出過ぎたときは、出た部分をゆっくり押し戻してください。

4 裏ぶたをきっちり締めます。

●フィルムが自動的に巻き上げられ、液晶表示部に ◎__1 が出ます。

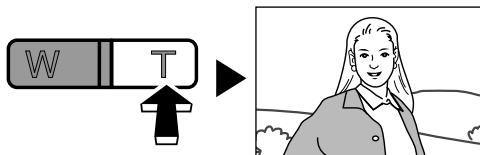
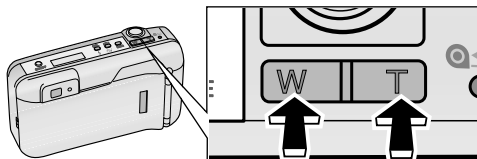
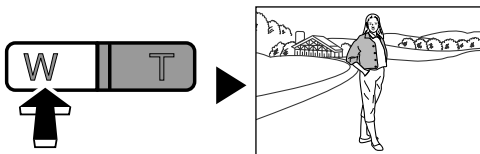
●__0 が点滅しているときは、フィルムが正しく巻き上げられていません。裏ぶたを開けてフィルムを入れ直してください。

2. カメラを構えます

1 メインスイッチを押して電源を入れます。

●約8分以上何も操作しないときは、レンズが本体内に収納され、節電のため自動的に電源が切れます。

2 カメラをしっかり構えます。

●ズームレンズの伸びた部分を持たないでください。ピントがずれることがあります。

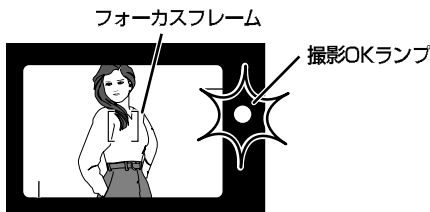
●ズームレンズの動きをさまたげないでください。

3. 撮りたいものの大きさを決めます

1 ファインダーをのぞきながら、ズームレバーを操作して、撮りたいものの大きさを決めます。

T側を押すと、より大きく写りますので人物のアップなどに便利です。(=望遠撮影)

W側を押すと、より広い範囲が写りますので、集合撮影などに便利です。(=広角撮影)

4. 全自動で撮影します

最初に電源を入れると、全自動で撮影できるように設定されています。シャッターボタンの半押しでフォーカスフレームの中のものに自動的にピントを合わせます。必要時にはフラッシュが自動的に発光します。

1 **ファインダーをのぞいて、フォーカスフレームを撮りたいものに合わせます。**

2 **シャッターボタンを半押しして、ファインダー横の撮影OKランプが点灯したら、そのままシャッターボタンを静かに押し込み撮影します。**

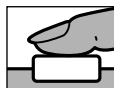
- シャッターボタンを半押しして、撮影OKランプが点灯している間は、ピントと露出が一時的に固定されています。

撮影OKランプについて

点　　灯 → 撮影できます。
消　　灯 → フラッシュが充電中です。シャッターは切れません。
ゆっくり点滅 → シャッター速度が遅くなっています（三脚などでカメラを固定してください）。
すばやく点滅 → 被写体が近すぎます。シャッターは切れません。

- シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。ここまで押すことを「半押し」といいます。

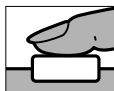
シャッターボタンの「半押し」

基本撮影

撮りたいものが画面中央にないときは（フォーカスロック撮影）

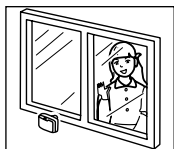
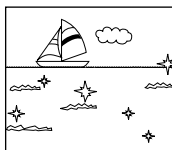
撮りたいものが画面中央にないときやオートフォーカスの苦手な被写体(→P.27)を撮影する場合、フォーカスロック撮影(ピントを一時的に固定して撮影する)が便利です。

1 ピントを合わせたいものにフォーカスフレームを合わせ、シャッターボタンを半押しします。

- ●オートフォーカスの苦手な被写体の場合は、ピントを合わせたいものと同じ明るさで同じ距離にある別の被写体にフォーカスフレームを合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ●ファインダー横の撮影OKランプが点灯すると、ピントと露出が一時的に固定されます。
- ●フォーカスロックは何度でもやり直しできます。

シャッターボタンの半押し

2 構図を決めて、そのままシャッターボタンを静かに押し込んで撮影します。

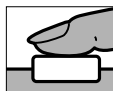
オートフォーカスの苦手な被写体

このカメラでは、以下のような撮影条件ではピントが合わないことがあります。このような場合は、撮りたいものと同じ距離と明るさの別のものにピントを一時的に固定してください（→P.26 フォーカスロック撮影）。

- [ ] のフォーカスフレームの周辺に、非常に明るい光や強い反射があるとき。
- 自動車のボディや水面など光を反射しやすいものを写すとき。
- 髪の毛など光を反射しにくいものを写すとき。
- ガラス越しに写すとき。
- 花火や炎など、実体のないものを写すとき。
- [ ] のフォーカスフレームより小さいものを写すとき。

1 **撮りたいものとほぼ同じ距離と同じ明るさの別のものに、フォーカスフレームを合わせます。**

2 **シャッターボタンを半押しします。**

- ピントと露出が一時的に固定されます。

3 **半押ししたまま撮りたい構図に変えて撮影します。**

近くのものを撮るときは

このカメラでは、

焦点距離 38mm（W側＝広角）では70cm
それ以外では80cm

まで近づいて撮影できます。

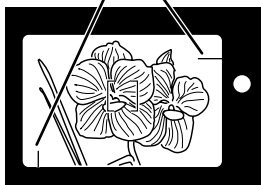
- この距離より撮りたいものに近づきすぎると、ピントは合わず、撮影OKランプがすばやく点滅してお知らせします。シャッターは切れません。
- 撮りたいものが極端にカメラに近い場合、撮影OKランプが点灯またはゆっくり点滅して、シャッターが切れることがありますが、ピントは合いません。

近距離補正マークの使い方

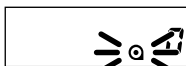
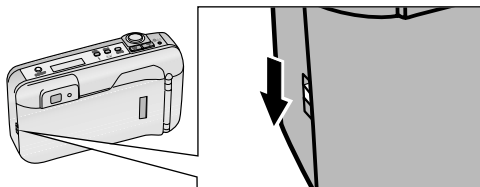
1.5m未満にあるものを撮るときは、ファインダーで見える範囲と実際に撮影される範囲との間にずれが生じます。そのような場合は近距離補正マークを使って、以下の要領で撮影してください。

1 ピントを合わせたいものをフォーカスフレームの中に合わせ、シャッターボタンを半押しします。

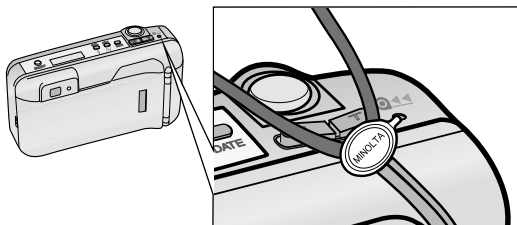
2 シャッターボタンを半押ししたまま、写したい範囲が近距離補正マークより右下にくるように、カメラを少し**左上**に向けて撮影します。

- フィルムには近距離補正マークの**右下**側（　の範囲）にあるものが写ります。
- 撮影距離が短いほど、また望遠側で撮影するほど、ずれの量は多くなります。最大にずれた場合、近距離補正マークの位置が写真の上端と左端になります。

5. フィルムを取り出します

最後のコマまで撮り終えると、ズームレンズが収納され、フィルムは自動的に巻き戻されます。巻き戻し中は、フィルムカウンターの数字が36→35→34→……と減っていきます。

1 液晶表示部のフィルムカウンターが 0 になり ◎ が点滅したら、巻き戻しは終了です。

2 裏ぶた開放レバーを押し下げ、裏ぶたを開けてフィルムを取り出します。

- 巻き戻し中は**セーフティロックが解除されます**ので、裏ぶたを開けないようご注意ください。
- すべての表示が点滅して、巻き戻しが途中で止まったときは、一度電池を抜いて入れ直し、電源を入れてください。
- フィルムを無理に引っ張り出さないでください。
- フィルムの規定枚数以上撮影した場合（例えば、24枚撮りフィルムを使用しているときに25枚以上撮影すること）、最後のコマは現像処理でカットされたり、日付・時刻が正しく写し込まれない場合があります。確実に撮影するには、規定枚数を撮影された後、フィルムを途中巻き戻しすることをおすすめします。

フィルムを途中で巻き戻すには

ストラップの突起部分で、ボディ上面の途中巻き戻しボタンを軽く押します。

●ボタンを強く押さないでください。故障の原因となります。

フラッシュ撮影方法が選べます

フラッシュ撮影方法(=フラッシュモード)には下記のような種類があり、フラッシュモード/セレクト(修正位置選択)ボタンを押すたびに下記の順番で切り替わります。

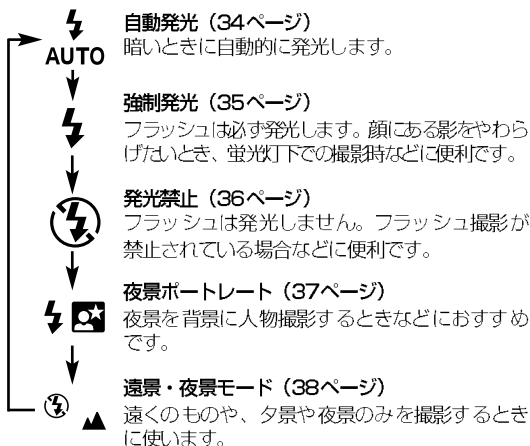
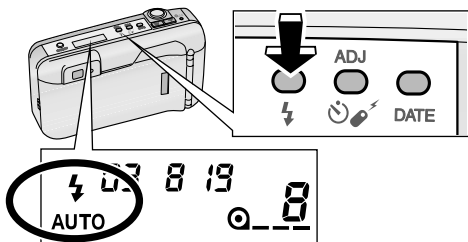
AUTO

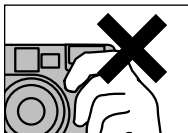
自動発光（34ページ）
暗いときに自動的に発光します。

強制発光（35ページ）
フラッシュは必ず発光します。顔にある影をやわらげたいとき、蛍光灯下での撮影時などに便利です。

発光禁止（36ページ）
フラッシュは発光しません。フラッシュ撮影が禁止されている場合などに便利です。

夜景ポートレート（37ページ）
夜景を背景に人物撮影するときなどにおすすめです。

遠景・夜景モード（38ページ）
遠くのものや、夕景や夜景のみを撮影するときに使います。

●メインスイッチをいったんOFFにして再度ONにすると、フラッシュは自動発光AUTOに戻ります。

フラッシュ撮影のときのカメラの構え方

●カメラを構えるときは、フラッシュに指がかからないようにしてください。

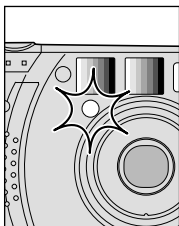
●縦位置で撮影するときは、フラッシュが上になるようにカメラを構えてください。フラッシュを下にして撮影すると、影の見苦しい写真になります。

フラッシュ光の届く範囲

フラッシュ光の届く範囲はレンズの焦点距離とフィルムの感度によって変わります。下の範囲内で撮影してください。

焦点距離 / フィルム感度	38㎜(W側)	130㎜(T側)
ISO100	0.7〜5.3m	0.8〜1.6m
ISO400	0.7〜10.6m	0.8〜3.2m

「ネガカラーフィルム使用時」

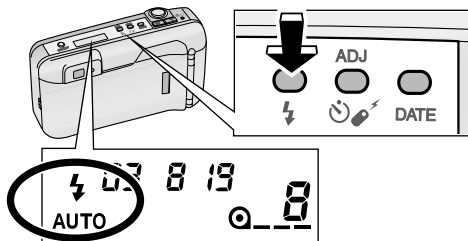
フラッシュで目が赤く写るのをやわらげるには

シャッターボタンを半押しすると、カメラ前面のセルフタイマー作動表示/赤目軽減ランプが点灯して、人物撮影の際に目が赤く写るのを目立たなくします。

シャッターボタンを半押ししてセルフタイマー作動表示/赤目軽減ランプを光らせ、1秒以上点灯させてから、その後ボタンを押し込んで撮影します。

応用撮影

ϟ AUTO 暗いときに自動的に発光させる（自動発光）

暗いときに、フラッシュが自動的に発光します。

1 フラッシュモード/セレクト（修正位置選択）ボタンを押して ϟAUTO を表示させます。

2 シャッターボタンを静かに押し込んで撮影します。

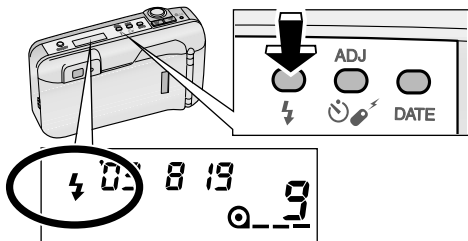
- シャッターボタンを半押ししたときに撮影OKランプが点灯すれば、必要な場合にはフラッシュが自動的に発光します。
- 撮影OKランプが消灯しているときは、フラッシュが充電中です。シャッターボタンから指を離してしばらくお待ちください。充電時間は約8秒です（新品電池使用時）。

⚡ 必ず発光させる（強制発光）

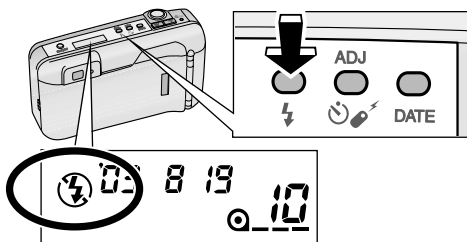
逆光のときや、明るい屋外で人物の顔に帽子の影ができているとき、また蛍光灯のついた明るい室内で撮影するときなどに、フラッシュを必ず発光させることで、より美しい写真が撮れます。

1 フラッシュモード/セレクト（修正位置選択）ボタンを押して ⚡ を表示させます。

2 シャッターボタンを静かに押し込んで撮影します。

応用撮影

発光させない（発光禁止）

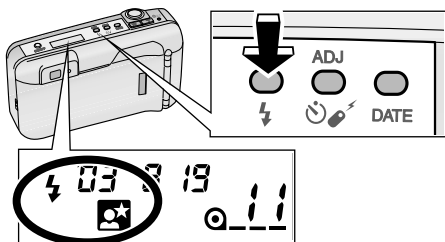
暗くてもフラッシュは発光しません。美術館などフラッシュ撮影が禁止されている場所などでの撮影に便利です。

1 フラッシュモード/セレクト(修正位置選択)ボタンを押して ⓕ を表示させます。

2 シャッターボタンを静かに押し込んで撮影します。

- 暗いところではシャッター速度が遅くなり（最長約4秒）、写真がブレやすくなります。撮影OKランプがゆっくり点滅してお知らせしますので、三脚などでカメラをしっかり固定してください。

夜景を背景に人物撮影（夜景ポートレート）

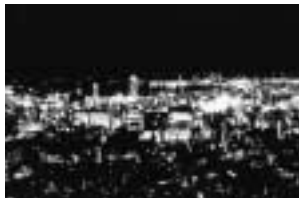
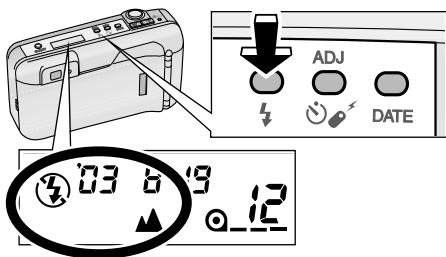
背景の夜景も人物も両方きれいに写せます。シャッター速度も遅くなり、フラッシュも発光します。

1 フラッシュモード/セレクト（修正位置選択）ボタンを押してを表示させます。

2 シャッターボタンを静かに押し込んで撮影します。

- シャッター速度が遅くなりますので（最長1秒）、三脚などでカメラをしっかり固定してください。写される人にも声をかけて、動かないように気を付けてもらうことをおすすめします。
- 人物の背景に明るい光（源）（ネオンなど）があるときは、フォーカスロックで人物にピントを固定してから（→P.26）撮影してください。

応用撮影

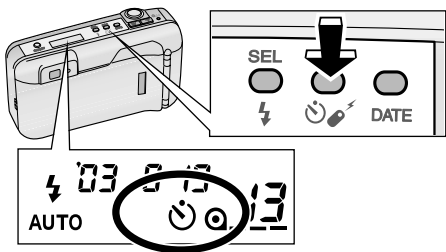
遠景・夜景モード

ピントを遠くに合わせ、フラッシュは発光しません。風景や夜景を撮影するときなどにお使いください。また、ガラス越しの風景でもピントがきれいにあった写真が撮れます。

1 フラッシュモード/セレクト（修正位置選択）ボタンを押して を表示させます。

2 シャッターボタンを静かに押し込んで撮影します。

- 撮影OKランプがゆっくり点滅したときには、シャッター速度が遅くなります（最長約4秒）。写真がブレやすくなりますので、三脚などでカメラをしっかり固定してください。

セルフタイマー撮影ができます

撮影者も写真に入ることができますので、全員での記念撮影などに便利です。シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。

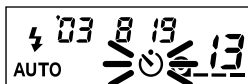
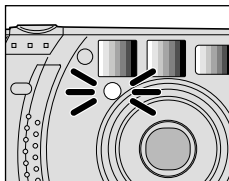
1 カメラを三脚などに固定してから、セルフタイマー/リモコン/アジャスト(数値設定)ボタンを押して、を表示させます。

2 フォーカスフレームを撮りたいものに合わせ、シャッターボタンを半押しします。

●ピントが合うと撮影OKランプが点灯します。

応用撮影

(次ページに続く)

3 シャッターボタンを静かに押し込んで撮影します。

- カメラ前面のセルフタイマー作動表示/赤目軽減ランプと液晶表示部の⏱が点滅し始め、約10秒後にシャッターが切れます。シャッターが切れる直前には、ランプはすばやい点滅、その後点灯に変わって撮影のタイミングをお知らせします。
- 撮影後は、セルフタイマー撮影は解除され、通常撮影に戻ります。

- セルフタイマー撮影を中止したいときは、シャッターが切れる前にセルフタイマー/リモコン/アジャスト(数値設定)ボタンを押すか、メインスイッチを押して電源を切ってください。

!

- カメラの正面に立ってシャッターボタンを押さないでください。

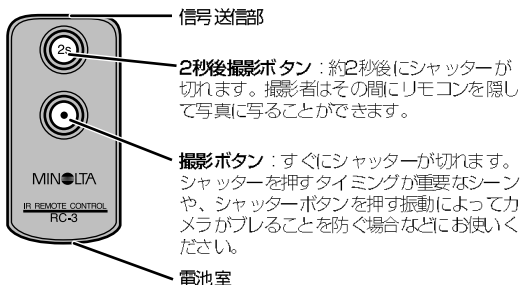
リモコン撮影ができます

付属のリモコン（IRリモコン RC-3）を使うと、カメラから離れたところからシャッターを切ることができます。撮影者も一緒に写りたいときや、カメラブレを防ぐときにもお使いください。

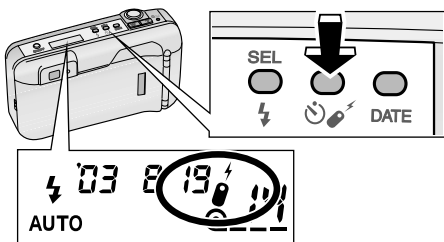
信号送信部

2秒後撮影ボタン：約2秒後にシャッターが切れます。撮影者はその間にリモコンを隠して写真に写ることができます。

撮影ボタン：すぐにシャッターが切れます。シャッターを押すタイミングが重要なシーンや、シャッターボタンを押す振動によってカメラがブレることを防ぐ場合などにお使いください。

電池室

1 カメラを三脚などに固定してから、セルフタイマー/リモコン/アジャスト（数値設定）ボタンを押して、を表示させます。

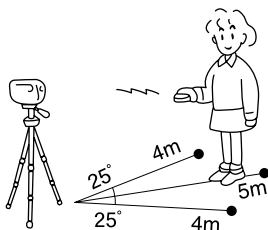
（次ページに続く）

応用撮影

●逆光時や蛍光灯の近く、極端に明るい場所では、リモコン撮影が可能な距離が短くなったり、リモコン撮影ができないことがあります。

●約8分以上カメラ、リモコンを操作しないと、節電のために電源が自動的に切れます。

2 図の範囲内で、リモコンの信号送信部をカメラに向け、2秒後撮影ボタン(2s)か撮影ボタン(●)を押します。

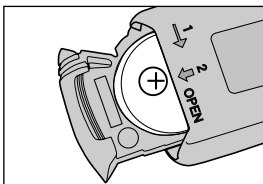
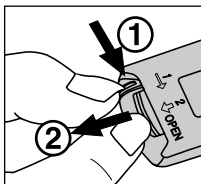
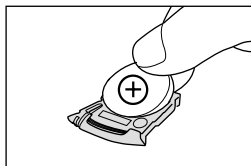
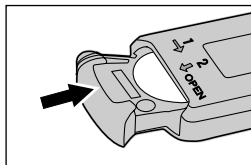
●2秒後撮影ボタン(2s)を押した場合、カメラ前面のセルフタイマー作動表示/赤目軽減ランプが点滅し始め、約2秒後にシャッターが切れます。

●撮影ボタン(●)を押したときは、ランプが1回点灯してすぐにシャッターが切れます。

●撮影後もカメラはリモコン撮影の設定のままです。解除するには、セルフタイマー/リモコン/アジャスト（数値設定）ボタンを押して、 を消灯させます。

●このカメラでは、リモコン撮影時のフォーカスロック撮影はできません。

リモコン用電池の交換

リモコン用電池は、リチウム電池 CR2032 を1個使用します。リモコンのボタンを押してもシャッターが切れなくなったら、電池を交換してください。電池の寿命は約10年です（お買い上げのときの電池はそれより消耗が早くなることがあります）。

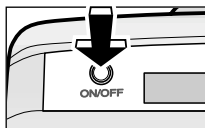
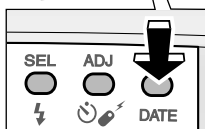
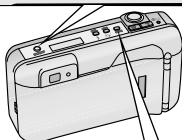
1 **① の方向に押しながら、電池室を ② の方向に引き出します。**

2 **古い電池を取り出し、＋側を上にして新しい電池を入れます。**

3 **電池室を元どおり確実にはめ込みます。**

●リモコン用リチウム電池は幼児の手の届かないところへ置いてください。万一飲み込んだ場合はただちに医師にご相談ください。

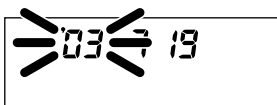
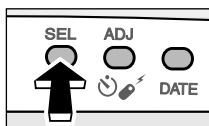
応用撮影

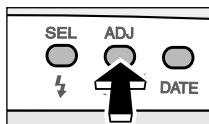
日付・時刻の修正方法

電池を交換したり、入れ直した後(→P.19)など、日付・時刻の修正が必要な場合は、以下の手順で行ってください。

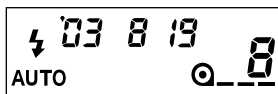
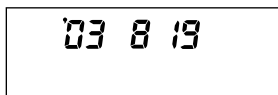
- 電池を交換した後や入れ直した後は、電源を入れると日付・時刻表示部に ‐‐‐‐ ‐‐ が点滅します。このままの状態では日付・時刻は写し込まれません。
- このカメラには2099年までの日付が記憶されています。

1 メインスイッチを押して電源を入れます。

2 日付・時刻写し込みボタンを押して、液晶表示部に SEt を表示させます。

3 フラッシュモード/セレクト(修正位置選択)ボタンを押します。

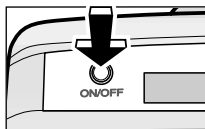
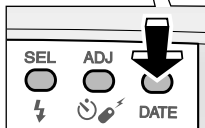
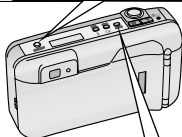
- 「年」の数字が点滅して、修正可能であることを示します。
- フラッシュモード/セレクト(修正位置選択)ボタンを押すごとに、年→月→日→時→分の順序で、点滅箇所が変わります。

4 セルフタイマー/リモコン/アジャスト(数値設定)ボタン、または、ズームレバーを押して、点滅している数値を修正します。

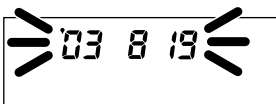
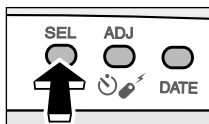
●押し続けると、数値が早送りされます。
●ズームレバーT側を押すと数値が大きくなり、W側を押すと数値が小さくなります。

5 他にも修正箇所があるときは*3*、*4*の操作を繰り返します。

6 修正が終わったら、点滅している数字がなくなるまでフラッシュモード/セレクト(修正位置選択)ボタンを押します。

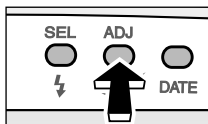
●しばらくすると液晶表示部は通常の表示にもどり、修正は完了です。
●日付・時刻写し込みボタンを押すか、シャッターボタン半押しでも、修正を完了することができます(シャッターボタンを半押ししたときは、液晶表示部はすぐに通常の表示にもどります)。

日付の年月日の並べ変え

「年月日」の並びの順序を変えることができます。

1 メインスイッチを押して電源を入れます。

2 日付・時刻写し込みボタンを押して、液晶表示部に SEt を表示させます。

3 フラッシュモード/セレクト(修正位置選択)ボタンを 約2秒間押します。

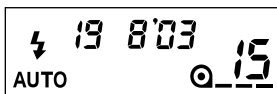
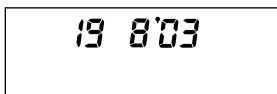
- 「年月日」がすべて点滅し、並べ替えが可能であることを示します。

4 セルフタイマー/リモコン/アジャスト(数値設定)ボタン、または、ズームレバーを押して、年月日の並び方を変えます。

●ボタン(または、レバー)を押すごとに、年月日 → 月日年 → 日月年 の順で並び順を変えられます。

年月日 '03 8 19 → 月日年 8 19'03 → 日月年 19 8'03

5 希望の並び順を選んだら、フラッシュモード/セレクト(修正位置選択)ボタンを押します。

●しばらくすると液晶表示部は通常の表示にもどり、修正は完了です。

●日付・時刻写し込みボタンを押すか、シャッターボタン半押しでも、修正を完了することができます(シャッターボタンを半押ししたときは、液晶表示部はすぐに通常の表示にもどります)。

▼

取り扱い上の注意

使用温度について

- このカメラの使用温度範囲は−10～40℃です。
- 直射日光下の車内など、極度の高温下にカメラを放置しないでください。
- 液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。
- 湿度の高いところにカメラを放置しないでください。
- カメラに急激な温度変化を与えると内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋に入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度になじませてからカメラを取り出してください。
- 電池の性能は、低温下では低下します。寒いところでご使用になるときは、カメラを保温しながら撮影してください。海外旅行や寒いところでは、予備の電池を用意されることをおすすめします。なお、低温のために性能が低下した電池でも、常温に戻せば性能は回復します。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

- 前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。
- 飛行機をご利用の際は、未現像フィルムやフィルムの入ったカメラは、機内持ち込みされることをおすすめします。預け入れ荷物に入れると、場合によってはX線検査でフィルムが感光する恐れがあります。
- 万一、このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

その他の注意

● カメラに強い衝撃を与えないでください。
● このカメラは防水設計にはなっていません。海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。
● 電池の容量が十分あるのにカメラが動かなくなったとき、またはフィルムが入ったままシャッターが切れず、巻き戻しもできない場合、フィルムが取り出せないことがあります。無理に取り出そうとせずに、フィルムを入れたまま、カメラをお買い上げのお店または弊社サービス窓口にお持ちください。

保管のしかた

保管するときは、涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒に入れるとより安全です。

● 防虫剤の入ったタンスなどに入れないでください。
● 保管中も時々電源を入れて、空シャッターを切る（フィルムを入れないでシャッターを切る）ようにしてください。また、使用前には整備点検されることをおすすめします。

手入れのしかた

- カメラボディを清掃するときは、柔らかいきれいな布で軽くふいてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷をつけますので、ブロアブラシで軽く吹き飛ばしてください。
- 測距・測光窓が汚れているとオートフォーカスが正しく動作しないことがあります。このときは、乾いた柔らかい布で測距窓の汚れをふき取ってください。
- レンズ面を清掃するときは、ブロアブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーをしみ込ませ、軽くふいてください。
- カメラ内部（フィルム室や裏ぶた内側）にホコリがあるとフィルムを傷つけることがあります。ブロアブラシで軽く吹き飛ばしてください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使わないでください。
- レンズ面に直接指で触れないでください。

アフターサービスについて

- 本製品の修理の際には、再生部品を使用したり、再生部品を含むユニットと交換させていただく場合があります。交換した部品およびユニットは回収いたします。
  また、本製品の補修用性能部品は、製造終了後5年を目安に保有していますが、同等の製品と交換させていただく場合もあります。
- 本製品の修理に関しては「アフターサービスのご案内」に記載の弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店にご依頼ください。

このようなときは…？

症状：シャッターが切れない。

原因	対策	ページ
●電池の入れ方が間違っている。	●電池室内側の＋－表示に従って電池を入れ直す。	19
●フィルムが正しく装填されていない。	●フィルムを入れ直す。	21
●フラッシュが充電中。	●シャッターボタンを半押ししたときに、撮影OKランプ(緑色)が点灯してから撮影する。	25
●被写体に近づき過ぎている。	●シャッターボタンを半押ししたときに、撮影OKランプ(緑色)が点灯する距離まで離れて撮影する。	25

症状：写真がブレている。

原因	対策	ページ
●暗い所でフラッシュを使わなかったり、夜景ポートレートで撮影したので手ブレをおこした。	●シャッター速度が遅くなるときは三脚を使用する。	36 37 38

症状：写真がボケている。

原因	対策	ページ
●撮影時、測距・測光窓に指がかかっていた。	●測距・測光窓に指などをかけない。	23
●レンズや測距・測光窓が汚れていた。	●レンズや測距・測光窓をきれいにする。	50
●被写体がフォーカスエリア［　］に入ってなかった。	●ピントを合わせたいものを正しく［　］に入れて撮影する。	25
●撮りたい物に極端に近づいたので、撮影OKランプ(緑色)が点灯しシャッターが切れたがピントが合わなかった。	●３８ｍｍ(広角)では70cm、それ以外では80cmまで離れて撮影する。	28
●AFの苦手な被写体を撮った。	●同じ距離にある別の被写体にフォーカスロックを行う。	27
●セルフタイマー撮影時、被写体がフォーカスエリア［　］に入っていなかった。	●ピントを合わせたいものを正しく［　］に入れて半押しし、撮影OKランプ(緑色)が点灯したのを確かめて撮影する。	39

症状：明るいのにフラッシュが発光する。		
原因	対策	ページ
●手ぶれ防止のためフラッシュが発光することがある。	●ISO 400などの高感度フィルムを使用する。	21
症状：フラッシュが発光しない。		
原因	対策	ページ
●自動発光では、十分明るい場所ではフラッシュは光らない。	●必要時、強制発光モードを選択する。	35
症状：フラッシュを使用したのに写真が暗い。		
原因	対策	ページ
●フラッシュ光の届かない距離で撮影した。	●フラッシュ光の届く距離内で撮影する(フラッシュ光の届く範囲は、使用するフィルムの感度、および焦点距離によって変わります)。	33
	●ISO400などの高感度フィルムを使用する。	21
●フラッシュの前に指をかけていた。	●撮影時はフラッシュの前に指などをかけない。	23 33
症状：リモコンによる操作ができない。		
原因	対策	ページ
●逆光時など、極端に明るい場所で撮影しようとしている。	●カメラの向きを変えるか、セルフタイマーで撮影する。	39 42
症状：日付表示が点滅している（日付が写っていない）。		
原因	対策	ページ
●電池交換後、日付を設定していなかった。	●日付・時刻を設定する。	44
症状：日付表示を修正できない。		
原因	対策	ページ
●カメラの電源が入っていない状態で修正の操作をしようとしている。	●カメラの電源を入れて、日付・時刻写し込み（DATE）ボタンを押し、SEt状態で修正する。	44

症状：フィルムが入っていないのに裏ぶたが開かない。

原因	対策	ページ
●セーフティロックがかかったままになっている。	●メインスイッチで電源を一度切り、もう一度入れ直す。	18
	●メインスイッチで電源を一度切り、電池をもう一度入れ直す。	19

症状：裏ぶたが開かず、フィルムが取り出せない。

原因	対策	ページ
●フィルムが巻き戻されていない。	●途中巻き戻しボタンを押す。	31
●フィルムの巻き戻しに失敗した。	●電池を入れ直す。	19 30

症状：ピント位置がおかしい。

原因	対策	ページ
●測距・測光窓が指紋でよごれている。	●測距・測光窓の汚れをふき取る。	50
●測距・測光窓に指や髪、ストラップがかかっていた。	●測距・測光窓に指や髪、ストラップがかからないようにする。	23
●AFの苦手な被写体を撮った。	●同じ距離にある別の被写体にフォーカスロックを行う。	27

症状：電池の容量が十分あるのに動かなくなった。
液晶表示部の表示がすべて点滅する。
液晶表示が消えてしまった。

対策

●電池を入れ直してみてください。繰り返して同じ状態になるときは、故障ですので、弊社アフターサービス窓口、または、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

資料

主な性能

カメラタイプ	35mmレンズシャッターカメラ
レンズ	ミノルタレンズ38-130mm /F5.4-12.5
オートフォーカス	赤外線アクティブ方式 撮影距離　38mm時：0.7m～∞ 　　　　　38mm以外：0.8m～∞
露出制御	プログラムAE 制御範囲(ISO100) 38mm時：EV6～16 130mm時：EV6～16
シャッター速度	4～1/500秒
フィルム感度	DXコードにより自動設定 （ISO 25～3200）
ファインダー倍率	0.4～1.24倍
電源	カメラ本体：3Vリチウム電池 CR123A×1個　または DL123A×1個 リモコン用：リチウム電池 CR2032×1個
フィルム撮影可能本数	約13本（新品電池で電池消耗までに撮影できる本数。24枚撮りフィルム、フラッシュ50%使用）

大きさ	カメラ本体：114（幅）×62.5（高さ）×46（奥行）mm リモコン：31.5（幅）×66（高さ）×6（厚さ）mm
質量（重さ）	カメラ本体：195g（電池別） リモコン：12g（リモコン用電池含む）

●本書に記載の性能は当社試験条件によります。

●本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

コニカミノルタ カメラ株式会社

お客様フォトサポートセンター

弊社製品のデジタルカメラ、フィルムスキャナ、カメラ、交換レンズ、露出計などの機能、使い方、撮影方法などのお問い合わせをお受けいたします。

ナビダイヤル　0570-007111
ナビダイヤルは、お客様が日本全国どこからかけても市内通話料金で通話していただけるシステムです。

TEL　06-6532-6205（携帯電話・PHS等をご使用の場合はこちらをご利用ください。）
FAX　06-6532-6252
受付時間　10:00～18:00（日・祝日定休）

ホームページでも弊社コンパクトカメラ製品に関する情報を提供しております。

http://konicaminolta.jp/compact/

9223-2481-61
NI-A401
Printed in China